



行日十月十... (Publication information)

秋冷隨筆

島田忠夫

「何年か前の春未だ浅い維新のたそがれ時、これは本...」

浴泉漫吟

島田忠夫

一九〇五年カーニヴァルの夜、ロキーン。外には雪...」

十五夜の月と詩

布村杵人

名月の特色はその形ちの正圓なこと、その光の純潔な...」

斯うした縁で知り合った...」

徳長友吉田禮

次郎氏

達識英才誰比肩...」

潮聲硯靜抄帳

物見ヶ岡稻荷祭

松葉

水門

湯の嶽の小徑つきたる

芒かな

落日ゆるゆる山ふところ

の芒かな

釣の糸ゆれてくつれぬ

芒影

しばらくは芒の穂をゆ

くばかり 枯草

舟漕げば潮岸は芒ばか

りなり

谿間の月

森はたる

霧間の月

暗かつた

父の裸が

温かつた

誰が殺したか

水谷準作

龍造寺隆慶

第三の殺人

（七）

やがて廊下の方に三三人

の慌たさし足音がした。

扉をあけて、覗き込んだ顔

はホルルの支配人と夜勤の

ボーイ

「お嬢さま泥棒といふのは

逃げました出入口は？」

「大丈夫です。何時でも見

張がついてあります。おい、

お前は四階の方へいつてみ

ろ、お嬢さま被害は？」

「寶石を全部、あ、これ

を御覧なさい。」

セキ子はふるふる指先に

名刺を挟んで支配人に差出

した。

「何ですこれは？お？」

「一目見るや、支配人の顔

はさつと蒼ざめた「血、笑

鬼」と思つたが...

支配人は自分の責任観念

から、血笑鬼の名を聞くと

と、セキ子は日頃こんな

時にと思つて、ひきだしに

してあつた拳銃を思ひだ

して、支配人の手に握らせ

て、彼は何もいはず一人上

階段を四階ぐらゐづ、跳上

りながら三階のセキ子の居

間に飛んで行き開放された

扉からなかに見た

鮮血！安樂椅子にもたれ

て、真白な寝巻を殆ど全部

赤く染めたセキ子が、人魚

のやうに身體を伸ばして物

云はぬ死體となつてゐる

その手に握られた血笑鬼

の名刺足元におもてゐる鏡

利な西洋剃刀支配人はその

た、そのあとからついてく

場へへた！と腰を抜かし

るべきボーイの足音が急に

て、果然とこのソプラニス

かき消れたのも彼は血を

見守るばかり

と、セキ子は日頃こんな

時にと思つて、ひきだしに

してあつた拳銃を思ひだ

して、支配人の手に握らせ



福祿ストロブ福引

景品付大賣出し

景品総額五萬圓

期 間 昭和十年九月廿五日ヨリ

十二月二十日マデ

福引券... 規定...

景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日

迄福引券引換最寄ノ代理店ニテ景品引換

景品

一等 百圓

二等 五十圓

三等 十圓

景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日

迄福引券引換最寄ノ代理店ニテ景品引換

景品

一等 百圓

二等 五十圓

三等 十圓

景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日

迄福引券引換最寄ノ代理店ニテ景品引換

景品

一等 百圓

二等 五十圓

三等 十圓

景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日

迄福引券引換最寄ノ代理店ニテ景品引換

景品

内臓外科一般 (入院隨意)

平町六丁目(橋際)

木村外科醫院

電話三〇九

漆器家具の御用命

和久井屋漆器店へ

御越し下さい。

平町一丁目電話四〇五番

御祝御引物品種々取捕御待申して居

ります。

夜

腸胃科

皮膚科

性病科

花柳病科

胃腸病科

内科

門

院

院

院

院

院

院

院

院

院

大和商店

桑原商店

天下一品散

新田町

廣

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

告

